

隕石学：近年アルジェリアとモロッコに落下したユークライト

21世紀になって、モロッコ、アルジェリア、モーリタニアなどで大量の隕石が発見され、ミネラルショーなどのマーケットにあふれた。ツーソン、ミュンヘン、サン・マリー、東京などの国際ミネラルショーでは、モロッコで発見された珍しい隕石が話題となる。

最近では2014年7月9日に、モロッコ南西部にユークライトが落下した。この落下では巨大な火球が出現し、周辺の村から3000人を超える人々が隕石探しに走ったという。数日後にティルヘルト、フォウム・エル・ヒシン周辺で発見された。隕石はユークライトにはよくみられる黒色のガラス光沢の強い溶融表皮に包まれており、メルトが表面を流れてできた流理構造がよく発達している。内部は斜長石と輝石の粗粒の集合体で、輝石は鮮やかなハチミツ色をしていてユークライトの中では際立っている。この隕石は国際隕石学会によってティルヘルト（Tirhert）隕石と名づけられた。

この隕石がマーケットに出回った2014年秋から2015年春にかけて、よく似た落下したばかりのユークライトも売りにだされていた。黒色でガラス光沢の強い溶融表皮で覆われていたが、内部はハチミツ色の輝石は少なく、やや緑色がかった輝石を多く含み、やや透明で大きな斜長石が目立った。褐色の鉱物も見られたがティルヘルト隕石に比べると量的には明らかに少ない。天体衝突による角礫化はしておらず、結晶質である。同一落下の岩相/鉱物組成の違いの可能性もあるのではないかと思ったが、ティルヘルト隕石を多数みたわけではないので判断がつかねた。



2013年にアルジェリアに落下したユークライト。

2016年の東京ミネラルショーに出展している海外の業者が、フレッシュなユークライトを展示していた。よくみると問題のユークライトと同じものである。この業者は隕石に関して詳しくかったので、その隕石が2013年7月17日に、モロッコとの国境に近いアルジェリアのティンドゥフという町の近くに落下したアオイネット・レグラア(Aouinet Legraa)隕石であることを知っていた。この隕石も落下の際に大規模な火球が出現し、多数の目撃者があったようである。しかし、隕石の発見は半年後の2014年4月になってからのようで、ティルヘルト隕石と出回る時期が重なった。国際隕石学会のカタログでは、総重量58 kgなのでかなりの量であるが、マーケットでみかけることはあまりない。

隕石業者の話によると、モロッコではほとんど隕石は拾いつくされ、最近では隕石を持っている人はもはやほとんどいないという。いまでも業者の間では取引があるが、アルジェリア、モーリタニア、マリなどで発見されたものを仕入れているものが多い。高い値段で売れる月や火星、エコンドライト、炭素質コンドライトがほとんどである。この業者もそうしたルートで入手したと思われるトロクトライトや斜長岩質角礫岩を展示していた。モロッコの隕石ビジネスも最終局面に近づいているようにみえる。